御山寺遺跡地元説明会資料

2007.9.1

主催　　財団法人　愛知県教育・スポーツ振興財団

愛知県埋蔵文化財センター

http://www.maibun.com

調査支援　株式会社 島田組

御山寺遺跡について

調査の経過　この調査は、県道一宮春日井線街路新設改良工事の事前調査として、愛知県建設部都市整備課から愛知県教育委員会を通じた委託事業として、財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センターが調査を行なっています。調査は平成16年度から４年間で、大規模な調査としては今年度が最後となります。

立地と環境　遺跡は、岩倉市中野町および鈴井町にまたがる、東西約500m以上の範囲に広がっています。当地は、五条川右岸の犬山扇状地から沖積平野に移行する地点に立地しています。

調査の成果

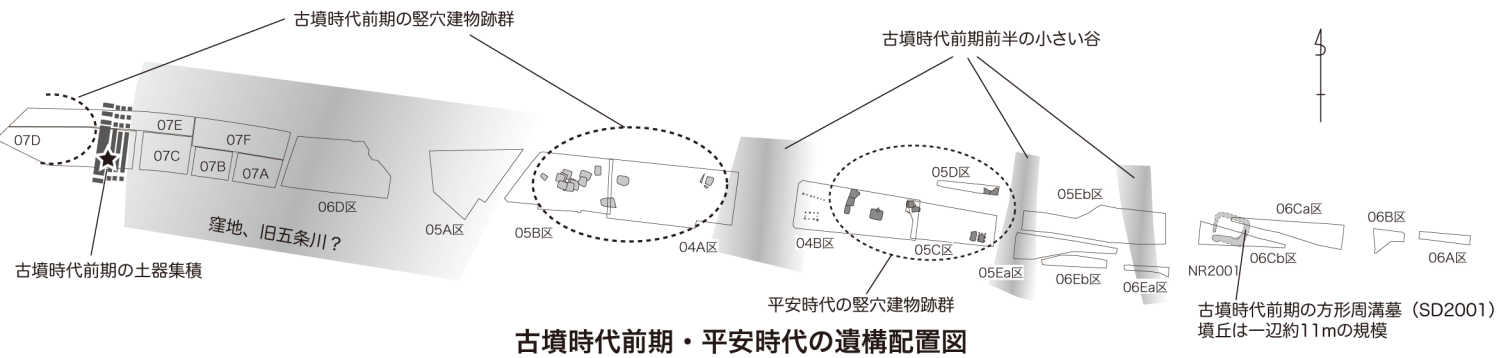
縄文時代　現在調査している遺跡の西端に限られるようです。出土土器から古いもので縄文時代晩期前半頃（紀元前1,000年頃）と考えられます。

古墳時代前期　紀元３世紀から４世紀頃と考えられる、遺構・遺物が検出されています。竪穴建物跡がまとまって見つかっている区域がある一方、谷を挟んだ遺跡の東端では、方形周溝墓とよばれる墳丘墓が見つかっています。

平安時代　竪穴建物跡や掘立柱建物跡が見つかっており、柱跡の一部は、この時期のものと考えられます。遺物は遺跡全体で広く出土しているものの、遺構として確認できたものはごく一部に限られているようです。

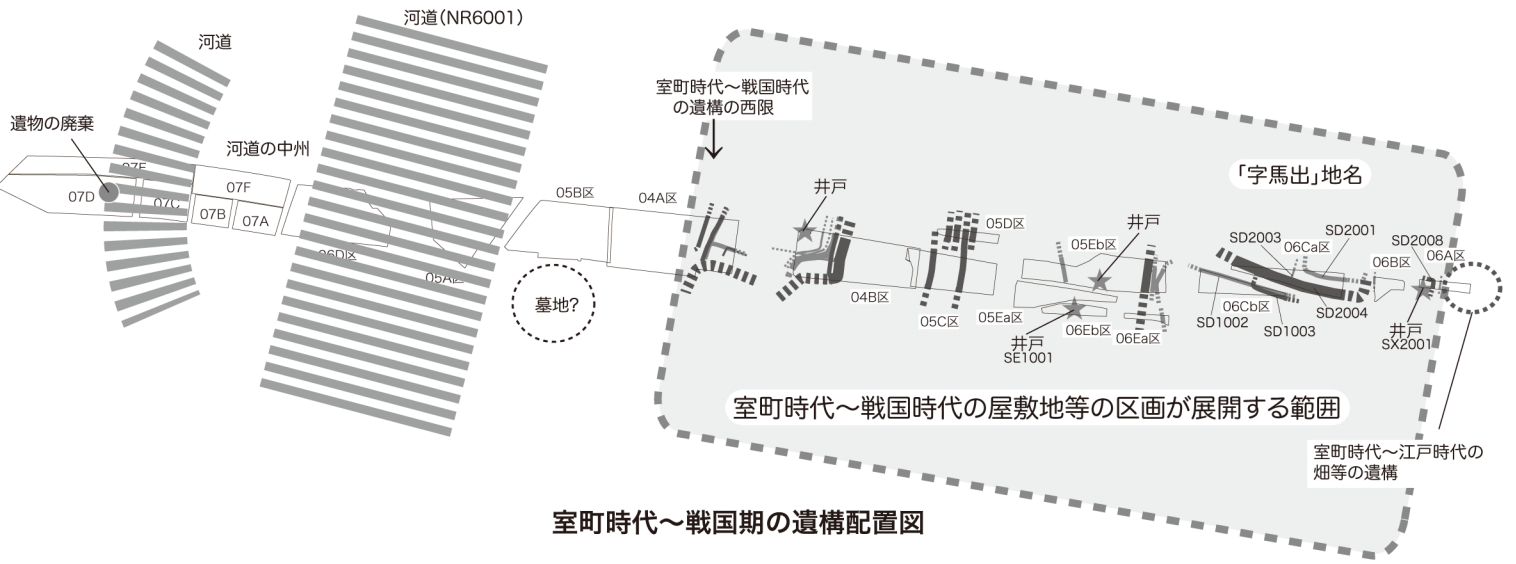
中世・戦国期　旧五条川と考えられる河川跡の東西で、様子が異なっています。東側では、室町時代から戦国期にかけての溝によって区画された屋敷地が見つかっています。溝は調査区内を横断する大溝を基本としてそれに直交する方向で区画が複数作られており、室町時代で一辺30～50mの、戦国期で一辺50mを越える区画が見つかっています。なおこの東西の溝は、旧五条川の窪地を使って掘削された、南北大溝につながっています。一方、遺跡の西端では、鎌倉時代と考えられる、自然流路内に陶器などとともに焼けた礫がまとまって廃棄された場所が見つかりました。

近世以降　河道の窪地を利用した、水田など耕作に関連する遺構が見つかっています。また、お墓の跡がまとまって見つかった場所もあります。

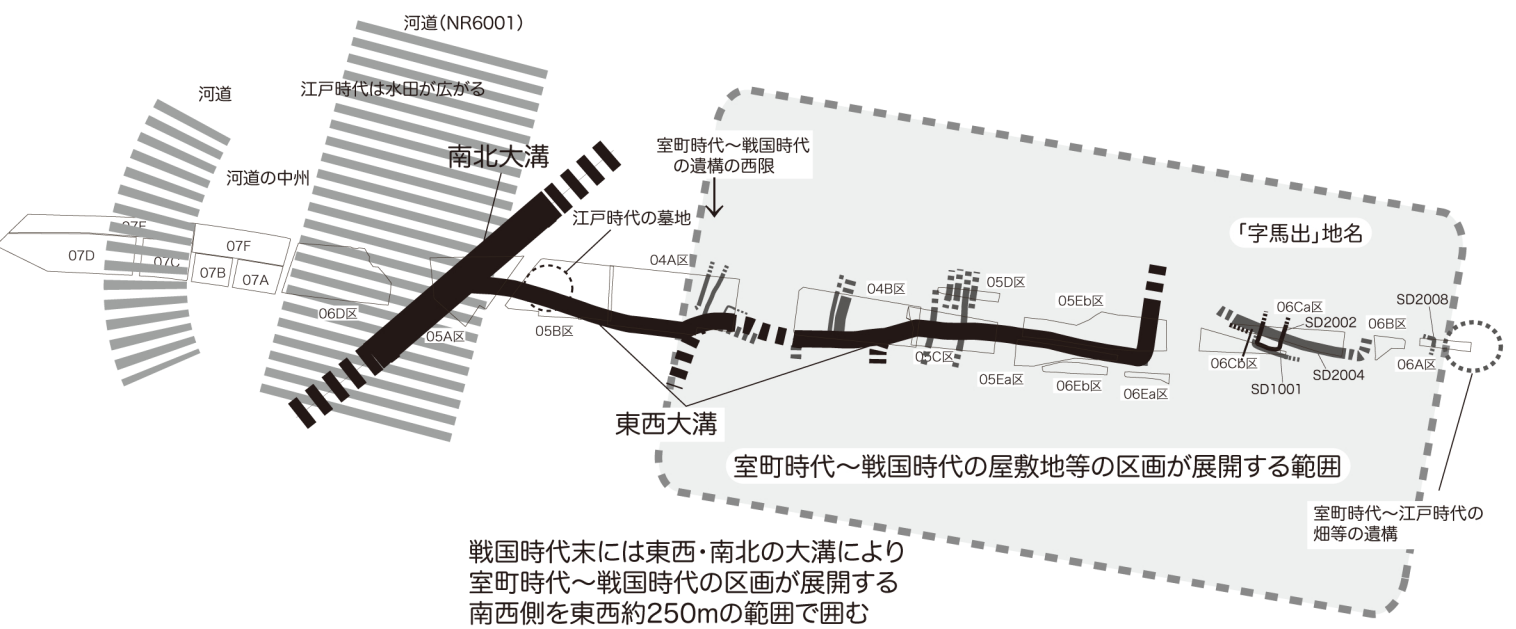


古墳時代前期・平安時代の遺構配置図

0 (1/2,500) 250m



室町時代～戦国期の遺構配置図



戦国時代末には東西・南北の大溝により
室町時代～戦国時代の区画が展開する
南西側を東西約250mの範囲で囲む

戦国期～江戸時代初頭の遺構配置図

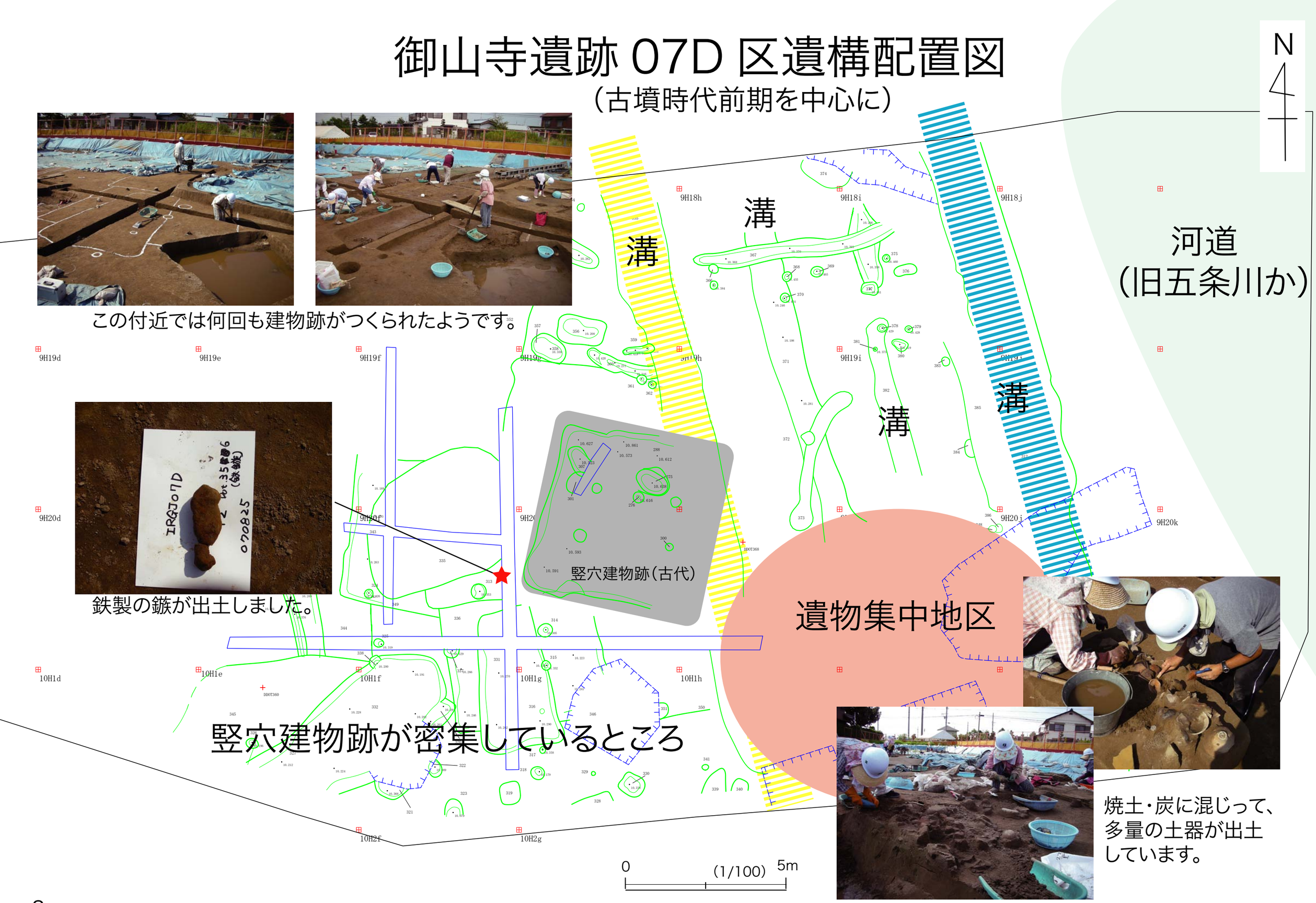
図は、下の文献のものを加筆・修正した。
蔭山誠一,2007「御山寺遺跡発掘調査」『広報いわくら』863.3～7頁。岩倉市役所。

御山寺遺跡 07D 区遺構配置図

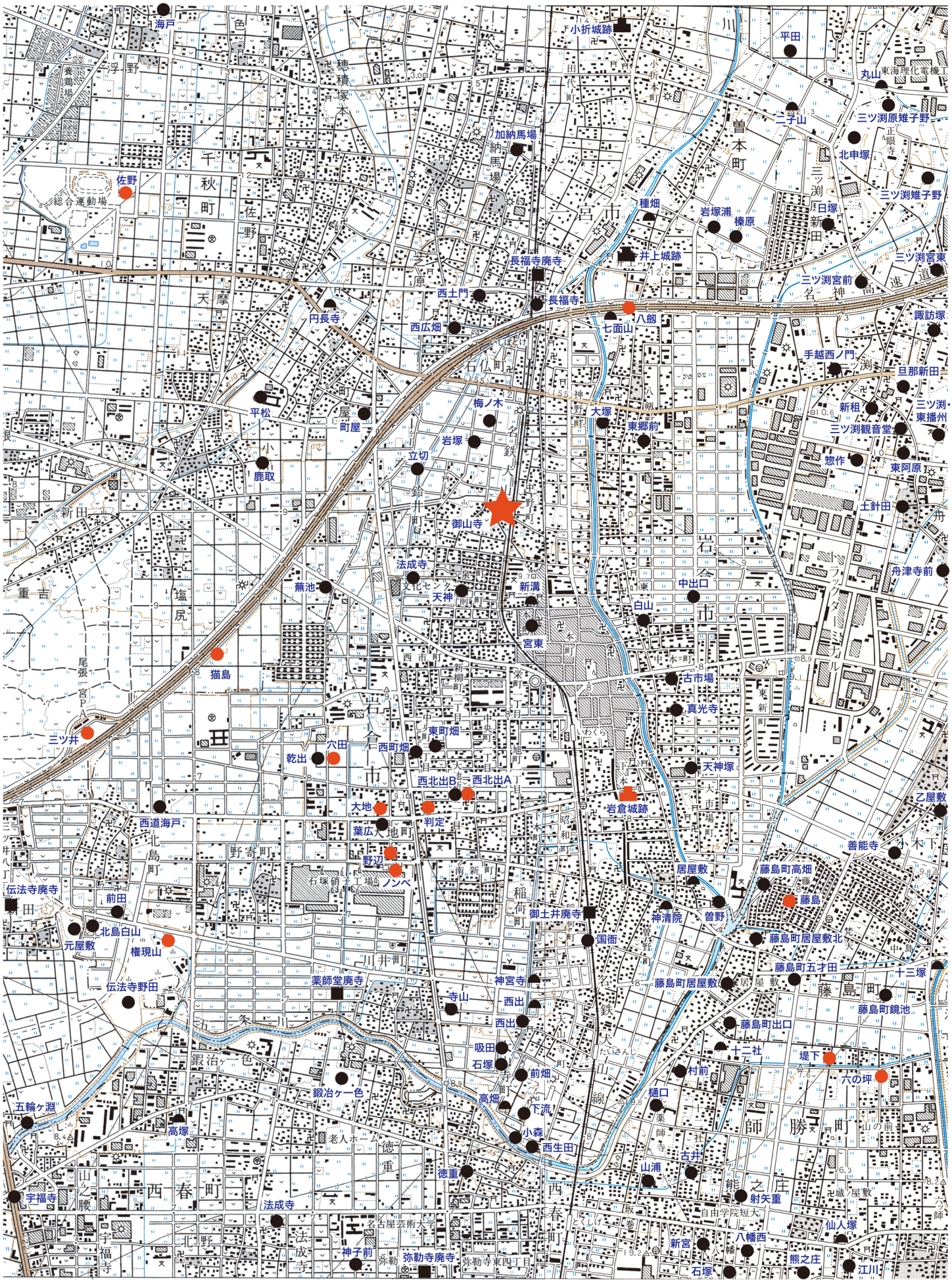
（古墳時代前期を中心に）

この付近では何回も建物跡がつくられたようです。

鉄製の鏃が出土しました。

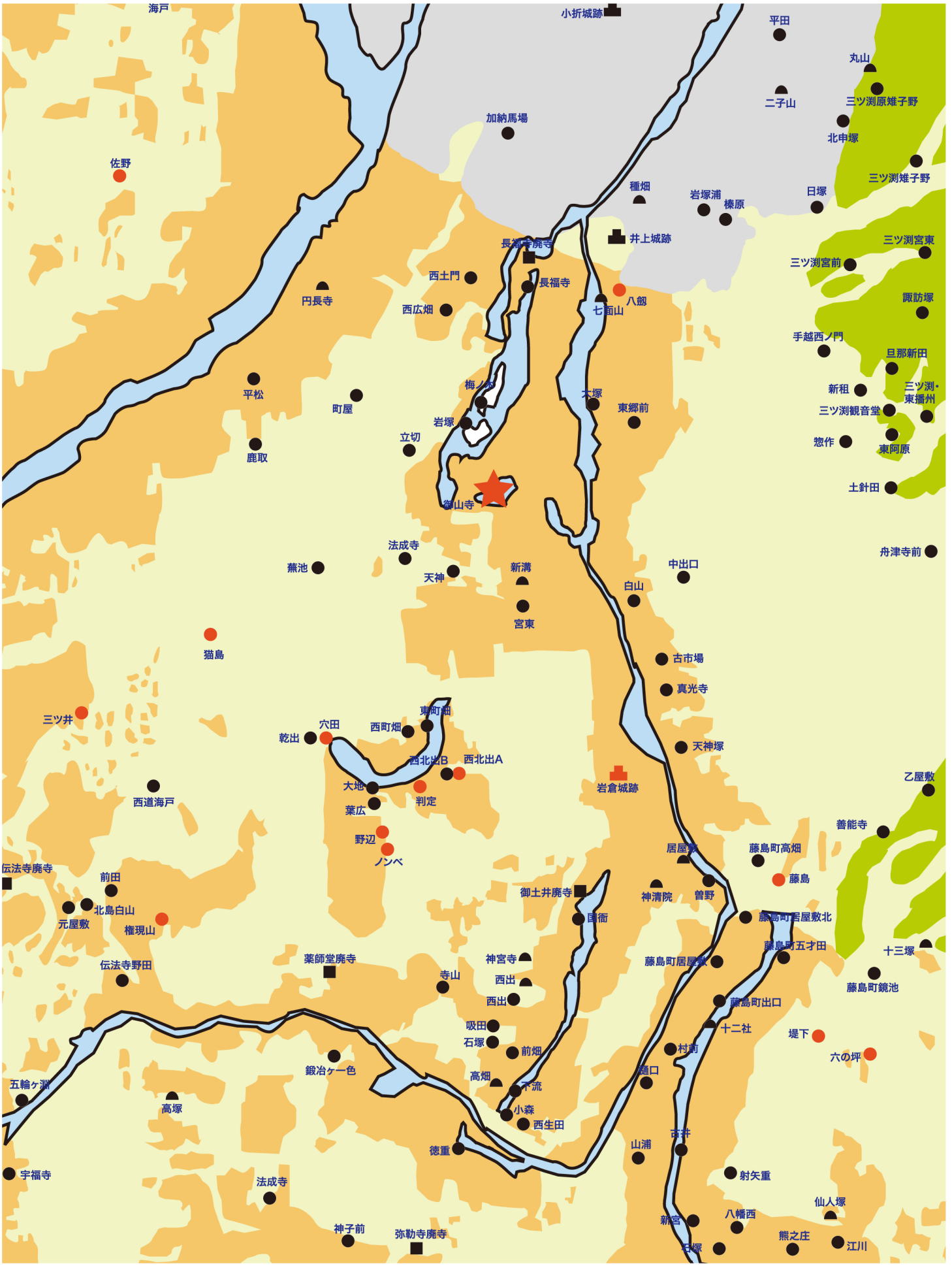


焼土・炭に混じって、多量の土器が出土しています。



5

御山寺遺跡と周辺の遺跡（国土地理院発行25,000分の１地形図「一宮」・「小牧」より）
赤色は、縄文時代の遺構・遺物がみつかった遺跡を示す

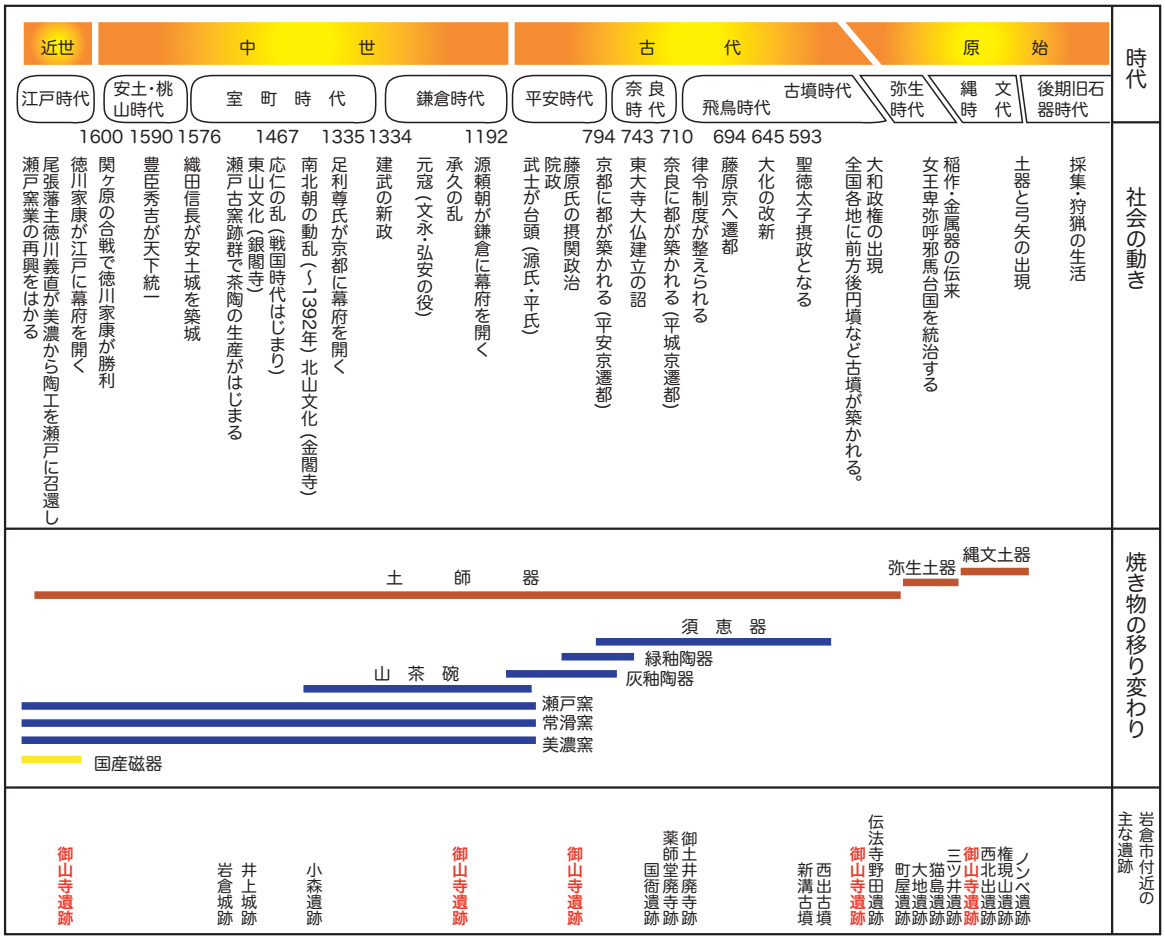


御山寺遺跡と周辺の遺跡

低地　自然堤防　扇状地　下位段丘　旧河道および河道

調査の成果のまとめ

御山寺遺跡の大規模な調査は、今年度が最後です。これまでの調査で分かったことは次のことです。

東西500m以上にも及ぶこの遺跡からは、縄文時代・古墳時代・古代・中世・戦国期・近世と、さまざまな時代の遺構・遺物が、見つかったことにあります。現在行なっている遺跡東端の調査では、これら各時代の遺構が重なった状態で見つかっており、特に古墳時代前期の竪穴建物跡群の保存状況は良好です。また、古代（平安時代）頃の集落の様相も調査では明らかになりました。

旧五条川と思われる河道の発見と、室町時代から戦国期の屋敷地を区画すると思われる溝が多数見つかったことも注目されます。また、黒色土中から縄文時代晩期の土器片が若干数出土しており、今後の調査によっては、縄文時代の活動の場が見つかる可能性もあります。